



ここに守りたいものがある



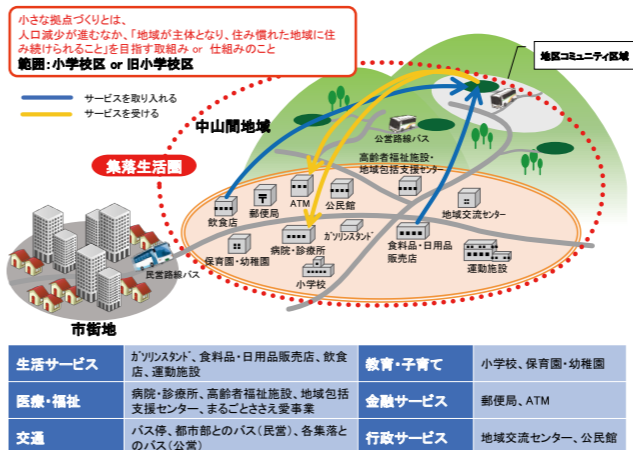
問合せ先/本庁地域政策課地域づくりG(内線4822)

小さな拠点づくりとは

全国では、少子高齢化や人口減少に伴い、集落での自助を行うことが難しくなったり、身近にあった生活サービスが受けられなくなってきた地域が多数あり、今後、労働人口の減少により税収も減り、行政による公助も行き届かなくなることが予想されています。

このような中、小学校区(旧小学校区)単位で、地域が主体となって、住み慣れた地域に住み続けられることを目指す取り組みや仕組みづくりが「小さな拠点」づくりです。

本市では、市内に48ある地区の中から



生活サービス	コンビニエンスストア、食料品・日用品販売店、飲食店、運動施設	教育・子育て	小学校、保育園・幼稚園
医療・福祉	病院・診療所、高齢者福祉施設、地域包括支援センター、まるとさきさえ愛事業	金融サービス	郵便局、ATM
交通	バス停、都市部とのバス(民営)、各集落とのバス(公営)	行政サービス	地域交流センター、公民館

共助の名のもとに、まさに自分たちの手で生まれ変わった地域のお茶の間「振り所ふじもと」

完成した「振り所ふじもと」について、振り所ふじもとと会のリーダーで「藤本ふれあい店」の代表でもある鬼塚透さんは、「藤本の自然の宝を生かして、四季にふさわしい場所にしたい。藤本滝や藤棚、つづじが丘などに行く際にここに立ち寄っていたらいいな」と話してくださいました。

「振り所ふじもと」のとある一日(イメージ)

- 〇 9:00～11:00
地域の高齢者が集合して健康体操。終了後は、お茶で交流。笑顔がいっぱい
- 〇 11:00～13:00
お母さんたちが弁当を持ち寄り、女子会開始。会話が弾む
- 〇 15:00～16:00
夕食用の野菜を買いに立ち寄った人たちは、お茶を飲んでほっと一息。

「場所」と「住民」をつなぐ「地域の足」

東郷町藤川地区

藤川地区には、菅原道真公が祭られている藤川天神や国の天然記念物「臥竜梅」があります。藤川天神のお祭り

や清掃などには地区住民が積極的に参加し、ゆべしやこんにやくの製造・販売の展開など、地域を支える活動を平日頃から行っています。

この先も「藤川」で安心して暮らしているために

地域における移動手段の確保のために必要な車両はトヨタ・モビリティ基金「地域に合った移動の仕組みづくり」助成事業の活用により整備し、運転手は、地域からボランティアを募りました。そして、昨年8月5日の出発式、2カ月の試験運行を経て、10月から本格運行を開始しました。

ここに、地域のボランティアによる自主送迎を行う「地域の足」が誕生しました。

住民の手により整備し、住民の手による運行を開始した「藤川おでかけ号」

藤川おでかけ号の運営の主体となる藤川地区コミュニティ協議会の田中一良会長は、「今とはかくたくさんの

ら、樋脇町藤本地区と東郷町藤川地区をモデル地区に選定し、平成30年度から2年をかけて地区内で必要な取り組みなどを話し合い、その仕組みづくりを行ってまいりました。

私たちが求め、目指すのは「買い物・交流・共助の場」

樋脇町藤本地区

藤本地区は、本市の景観重要資産第1号に選定されている藤本滝や住民の手により管理された藤棚、農産物直売を行っている藤本ふれあい店などを有し、地域の活性化のために日頃から積極的に活動しています。

藤本地区における小さな拠点は、「藤本ふれあい店」を「買い物」の場としてだけでなく、「交流の場」や「共助の場」とする方向で進められました。

住民自らの手により行った改修は、経費節減のためではなく、唯一無二の価値の創造のため

「藤本ふれあい店」の中に多機能型の小さな拠点を設けるために、改修が必要となったことから、住民自らの手により、不要な壁の撤去、テーブルや洗い場の設置、天井の張り替えなどの改修を進め、ここに地域のお茶の間としての側面を持った「振り所ふじもと」が完成しました。



▲改修作業は、「ものづくりワークショップ」として2日間の作業と追加作業により、実に3カ月間にわたって進められました。



▲美しく生まれ変わった店内は、広々としていて温かい。住民が持ち寄りたり手作りしたりした備品は一樣でないながらも味がある。



▲地元の有志で構成された「振り所ふじもと」会。ふれあい店を管理する永田美代子さん(中央)は、「みんなに気軽に立ち寄ってほしい」と話してくださいました。

人に利用してもらいたい。そして、2年間の実績の後にも継続して必要か、必要なら継続するためにどうしたらいいかなど、またみんなで話し合ってきた」と話してくださいました。

「藤川おでかけ号」のとある一日(イメージ)

- 〇 9:00～11:00
サロン参加のため、地域の皆さん宅を訪問し、会場へ送迎
- 〇 13:00～15:00
昼からの寄り合いの送迎のため、再び出勤
- 〇 15:00～17:00
地区内の見守りのため巡回

これからの展開へ期待

このように、2つのモデル地区では、2年間で小さな拠点づくりの準備を行ってまいりました。

どちらも、今、まさにスタートを切ったばかり。これから、本格的な取り組みへと発展していくことになりませんが、どのように活用していくのか、いかにして継続していくのか、両地区の課題とも言えそうです。

また、市ではその経過を確認しながら、比較的緊急性の高い他の地区でも小さな拠点づくりを進めていく予定です。皆さんも、これを機会に、住み慣れた地区に住み続けるために、これから何の取り組みが必要か、何ができるかをぜひ話し合ってみてください。